

1 単元名 備前堀をつくった伊奈忠次

2 目標

新田の開発や洪水、水不足を防ぐために備前堀をつくった伊奈忠次の働きについて調べ、その工夫や苦心を考えたり、今とのつながりをとらえたりすることで、地域社会に対する誇りと愛情をもつことができる。

3 単元について

○児童の実態

児童が今までの生活の中で目にしている備前堀。伊奈忠次によってつくられたことを一部の児童は知っている。しかし、それがいつ、どのように、何を目的としてつくられたか、また現在何に利用されているのかは知らない。

渇水や水不足の危機もない地域に育つ児童だが、今年の3月に起きた震災で児童自らが被災者となり、水道が使えない体験をしたことで、飲料水を得ることの大変さや生活において水が重要であることを身をもって学んできた。

1学期の単元「水はどこから」では、きれいで安全な水の確保と供給について学習した。水戸市の取り組みが自分たちの生活に役立っていることを知り、行政というものが自分たちの生活に大きく関わっていることに気付くことができた。また、節水の重要性や、水環境を大切にすることが自分たちの使う水の安全性が高まることにつながることも知った。また、昔の水道はどうだったのか、という思いから徳川光圀時代に設けられた笠原水道について、総合的な学習の時間で学んできている。

また、これまでの学習で、知って得た事実を述べるだけでなく、自分なりに事象の意味を考えていく学習を進めてきたことで、根拠をもとに自分の考えを説明できるようになってきている。

浜田地区には様々な歴史を感じられるものがあることを児童は日常生活や生活科・社会科の学習を通して知っており、それらを身近なものとして愛着をもっている。しかし、誇りや愛情をもつまでには至っていないのが現状である。

○教材観

本単元は地域の発展に尽くした先人の働きについて調べ、その工夫や苦心を考えることを通して、地域社会に対する誇りと愛情を育てることをねらいとしている。

備前堀は、初代水戸藩主徳川頼房の命により、徳川家康の家臣であった伊奈備前守忠次が中心となってつくり上げた人工の堀である。

頼房は水戸藩主となって以来、佐竹氏時代からの水戸城について拡張整備、改増築を大規模に行った。それは城下町にも及び、上町を広げるとともに、上町に住んでいた商人を中心とした町人を千波湖東側の低地を埋め立てて新しい町人町をつくって移り住まわせた「田町越え」により、下町が生まれた。下町は江戸街道の起点となり、陸前浜街道が「本町」を通るといふ、商業と交通の要所として水戸藩の繁栄を支えた。

その「田町越え」を可能にしたのが備前堀である。備前堀は、新田の開発に必要な用水路としてつくられた利水面、人々の暮らす場である低地に洪水を頻繁に繰り返した千波湖や那珂川の影響による水害や、渇水による水不足を食い止めるべくつくられたという治水面の二つの目的をもつ。

また、当時の他の土木工事同様、困難な状況での工事であったと伝えられているが、様々な工夫や努力によって乗り越え、完成に至っている。更には、備前堀は現在まで何度も手が加えられてきており、今なお、地域の人々にとって、なくてはならない存在である。

今日、市民が誇れる「水の都・水戸」を目指して成されてきた水戸市の環境事業により、美しい景観をもつ備前堀が残り、浜田地区で生きる児童にとってなじみのある歴史的遺産となっている。これらを教材化していくことで、地域社会に対する誇りと愛情を育んでいきたい。

○指導観

導入では、水戸藩初期の千波湖の様子が分かる古地図を取り上げ、現在の千波湖との比較をしながら、備前堀ができる前の水戸の地形の様子をとらえていけるようにしていく。そして、藩が新田開発や田畑に水を引くことに力を入れていたことや、度重なる千波湖の氾濫による洪水やわずかな日照りでも旱害に見舞われ人々が苦しんでいたことから、備前堀をつくる経緯に至ったことを資料から読み取っていけるようにしていきたい。

中盤では、実際に備前堀沿いを歩き、つくられてから400年後も残る備前堀の存在を五感を通して感じていけるようにしていく。知りたい・学びたいという意欲が喚起され、課題をもち、解決しようとする力もわくだろう。その後、備前堀をつくるために尽力した伊奈忠次の働きについて追究していけるようにしていきたい。備前堀はどのようにしてつくられたのかを調べることを通して、伊奈忠次の働きや努力について考えることができるようにしたい。

終末では、自分たちがボランティアガイドとなり、備前堀について何を紹介していきたいか、考えていく活動を設けていく。そして、400年前の取り組みでつくられた備前堀が今も残り、今日の水戸市の発展や人々の心につながっていることについて話し合うことを通して、自らも地域社会に誇りと愛情をもつことができるようにしたい。

4 「みえる」「わかる」子どもの姿

わ み か え る	「伊奈忠次の大変な努力や苦心の末に備前堀がつくられたことで、洪水や水不足が少なくなり、広い田んぼに水が行き渡り、大きな恵みを受けることができたのだな。備前堀って素晴らしい遺産なんだな。」
考 え る	備前堀ができる前とできた後の水戸の様子をくらべてみよう。 ① 伊奈忠次は、400年前も前に、どうやって12kmもの堀をつくることができたのだろう。 ②～⑨ 備前堀ボランティアガイドとして、何をみんなに伝えたいか、考えよう。 ⑩
見 え る ・ 分 か る	・ 現在における備前堀の役割（歴史的遺産、水環境としての景観美、農業用水） ・ 生活の中で備前堀が利用されてきたことについて（農業用水、船遊び、染め物の洗い場など） ・ 備前堀完成後の様子（当時の二十一の村々にわたって千ヘクタールの水田を潤したこと） ・ 伊奈忠次が病死してから、工事が続行され、完成に至ったこと ・ 備前堀が水利・治水を目的として工事してつくられたこと（土地調査、工事の範囲） ・ 神格化された伊奈忠次（伊奈神社） ・ 伊奈忠次と徳川家康とのつながり ・ 伊奈備前守忠次の人柄、各地での業績と評判 ・ 千波湖の溢水による洪水や、日照りによる水不足に苦しみながら生活していた人々の様子 ・ 水戸藩ができた当時の千波湖の様子（今よりもすごく大きい、桜川がない、那珂川との関係）
学 習 材	○ 農業用水としての利用（写真） ○ 水環境の資料【佐川市長期の備前堀整備、加藤市長期の「水の都」の環境づくりについて】 ○ 生活の中の備前堀利用（聞き取り調査、文献） ○ 備前堀保存会の人や紺屋町の人の話 ○ 備前堀水利・治水事業の効果（文献、想像図） 【洪水や水不足の減少、米の取れ高の変化「田町越え」の基礎となったこと】 ○ 当時の備前堀の様子（古地図、文献） 【備前堀の範囲、土地の高低差を利用した排水、浜田／平戸をへて瀬沼川までの農業灌漑の様子】 ○ 伊奈備前守忠次について（銅像の写真、各地での業績と評判を記した文献、水戸藩での活躍について記した文献） ○ 江戸時代初期の水戸藩の状況について（徳川家康の治世について、水戸城・水戸城下の整備についての文献、「田町越え」についての文献） ○ 当時の千波湖近辺での自然災害についての資料（古地図、文献） ○ 水戸藩ができたころの水戸の地形の様子（古地図、文献、想像図）

5 評価規準

- 備前堀をつくった伊奈忠次の働きについて関心をもち、進んで追究し、地域社会に対する誇りと愛情をもとうとしている。(関心・意欲・態度)
- 当時の様子を資料をもとに調べ、備前堀をつくった目的や先人の働きや苦心について考え、適切に表現している。(思考・判断・表現)
- 備前堀についての資料を読み取ったり、実際に歩いて観察したり、地域の人々の話を聞いたりして、昔と今の備前堀の様子についてまとめている。(技能)
- 備前堀の完成により当時の人々の生活が向上したことや、先人の働きや苦心について理解している。(知識・理解)

6 単元の指導と評価の計画(10時間) (①・②は時数、◇は評価)

①	○ これは、何の写真だろう。 ・ 備前堀 ○ たれがいつ、つくったのだろう。 ・ 伊奈忠次・水戸黄門の時代?・江戸時代?	
	備前堀ができる前とできた後の水戸の様子をくらべてみよう。 前・千波湖が今と違って広い。 ・ 那珂川の流が千波湖にせまっている。 ・ 大雨が降ると千波湖の水が溢れたり、那珂川の水が流れ込んだりして、洪水が多かった。 ・ 雨が降らず、日照りが続くと水不足になってしまった。 後・備前堀に水が流れて、水はけがよくなったかも。 ・ 田んぼがたくさんできて、米がよくとれるようになっただろうな。 ・ きっと水不足がなくなったよ。	◇ 備前堀ができる前とできた後を比較しながら、郷土に残る備前堀に興味をもとうとしている。(関心・意欲・態度) ◇ 当時の水戸の様子をつかみ、備前堀がつくられた経緯を想像している。(思考・判断・表現)
②	伊奈忠次は、400年前も前にどうやって12kmもの堀をつくることができたのだろう。 ・ 伊奈忠次はどうして備前堀をつくることになったのかな。 ・ 備前堀はどのようにつくられたのかな。 ・ 備前堀はどのくらいの長さになったのかな。 ・ 備前堀ができて人々の生活はどう変わったのかな。	◇ 備前堀や備前堀をつくった伊奈忠次について関心をもち、調べようとしている。(関心・意欲・態度)
③ ⑥	備前堀づくりにかかわる、もの・人・ことについて調べよう。 もの：工事に使われた道具、材料 人：伊奈忠次、役人、工事を請け負った人々 こと：備前堀づくりに賛同し協力した村々の人々 こと：千波湖の洪水、備前堀の通っているところ、備前堀の工事、備前堀ができて人々が受けた恵みについて 【努力や苦悩が主ながる主なもの】 つくるために人々に協力を募ったこと 測量、工事を手作業で行ったこと 忠次が病死→後を継ぎ備前堀を守ったこと	◇ 備前堀や備前堀をつくった伊奈忠次に関する資料を選択し調べ、必要な内容を読み取っている。(技能)
	備前堀沿いにある石碑の碑文から 「水戸の歴史」や「偕楽園なんでも百科」から 「水戸市史」や「水戸市水道史」から 古地図や文献、年表から(児童用の共通資料) 備前堀について知る人の話から 雑誌記事から	◇ 読み取り、調べたことをカードやボードに書き表している。(技能) ◇ 調べたことを発表し合う中で、友達の話や聞き取り、知識を得たり、理解したりしている。(知識・理解)
⑦	備前堀づくりにかかわる、もの・人・ことについて、みんなでまとめよう。	
⑧ ⑨	備前堀ができて、どのように変わったのだろう。 当時・備前堀が完成し、長さ12kmにもなった。 ・ 当時の21の村々に水が行き渡り1000haの水田を潤すことができた。 ・ 米が以前より多くとれるようになった。 ・ 水不足が解消された。 少し昔・生活用水、染め物の洗い場、船遊び、水遊び 今・農業用水 ・ 備前堀の景観美を整えた事業→憩いの場 ・ 地域の行事とのかかわり(灯籠流しなど) ・ 清掃活動→維持していくための取り組み	◇ 備前堀の完成により、地域の人々の生活が向上したことを考えている。(思考・判断・表現) ◇ 備前堀は、地域の人々の生活とかわりながら、現在まで残ってきたことを理解している。(知識・理解)
⑩ (本時)	備前堀ボランティアガイドとして、何をみんなに伝えたいか、考えよう。 ・ 素晴らしい先人の働きや歴史があること ・ 豊かに生活できるように、人々が工夫してきたこと ・ 農業に欠かせない水を運んでくれるものであること ◎ 歴史ある、美しい景観の備前堀を大切にしていきたいな。	◇ 備前堀のもつ歴史や、現在の美しい景観をもつ備前堀を大切にしたいという思いをもっている。(関心・意欲・態度)

7 本時の指導

(1) 目標

伊奈忠次のつくった備前堀の歴史や、現在も地域に役立ち美しい景観をもつ備前堀を大切にしていこうとする思いをもつことができる。

(2) 授業づくりの課題

調べてきた備前堀について語る立場になることを通して、その歴史的価値や地域社会の環境における景観美、役割の重要性をとらえることができれば、備前堀を大切にしていきたいという思いが高まるであろう。

(3) 展開

学習活動・内容	児童への働きかけ・評価
1 本時の学習課題をつかむ。 備前堀ボランティアガイドとして、何をみんなに伝えたいか、考えよう。 2 ボランティアガイドになった自分が、備前堀について語る際、どんなことを語りたいか考え、まとめる。 「これが 400 年前に伊奈忠次たちが苦労を重ねてつくり、今の時代まで残ってきた備前堀です。」 「市民の癒しの水空間になっていて、灯籠流しやお祭りの時にライトアップされて、きれいなんです。」 「伊奈忠次が人々のためにと願ってつくった備前堀が今でも田んぼの水に使われて役に立っているんですよ。」	・備前堀が水戸で有名な水戸黄門や納豆と比肩するものとなるようにアピールしていこうという気持ちを起こさせ、意欲喚起する。 ・話し合いがしやすいよう、学習形態をコの字型にする。 ・児童が語る備前堀について合う写真や絵などを提示させ、学習してきたことを想起しながら発表が聞けるようにする。 ・「大切にしたい」などの思いを語る児童の発言が出た場合は採り上げ、3の「伝えたい思い」につなげたい。
3 備前堀について、どうしても語りたいこと・伝えたい思いは何か、話し合う。 ○語りたいこと 【歴史】 ・備前堀は、伊奈忠次たちが大変な努力や苦労をして人々のためにつくったものであること。 ・備前堀ができたことが、水戸の下町ができることにつながったこと。 ・江戸時代に浜田の地区が大変栄えていたという歴史があること。 →素晴らしい先人の働きや歴史があること 【まちづくり】 ・市が「水の都」として環境づくりに取り組み、多くの費用と時間をかけて美しい景観にしたこと。 ・市が市民のために癒しの空間にしたこと。 ・地域の人たちが備前堀は大切に残していきたいものと考え、清掃活動をしたり、備前堀に親しむ行事をつくって広げたりしたこと。 →みんなが豊かに生活できるよう、人々や市が考えて工夫してきたこと 【農業】 ・農業をしている人たちが今でも備前堀から水を得ていること。そしてこれからも使っていくこと。 →昔からずっと今まで、そしてこれからも農業に欠かせない水を運んでくれるものであること ○伝えたい思い ・素晴らしいものなんだ。 ・浜田の自慢だ。 ・誇りに思う。 ・これからも大切にしていきたいな。	・一斉での話し合いにすることで、単元の終末段階での学級全体における備前堀への思いがまとまる機会とする。 ・備前堀のもつ多くの素晴らしさを発見できたことが、備前堀を誇らしく大切に思う気持ちにつながると考える。自由に発言させて引き出していくようにする。 ・なかなかうまく表現できない児童が語った言葉も、全体でつなげながら、意見として大事に残していく。 ・今までの学習で自分が得て知った語りたい事実を述べるだけでなく、自分の中で意味を追究してきた考えや「伝えたい思い」を交えて発言する児童がいれば、随時とり上げ、他へ広げていくようにする。 ・児童から出てきた考えは【歴史】【まちづくり】【農業】などの観点で分類できると予想される。工夫しながら板書し、児童の思考の助けとなるようにする。 ⑤ 伊奈忠次のつくった備前堀の歴史や、現在も地域に役立ち美しい景観をもつ備前堀を大切にしていこうとする思いをふくらませている。 (関心・意欲・態度)
4 本時の学習を振り返る。	・今までの単元全体を通しての学びを振り返って感想を言う児童、友達の発言から自分の思いが変化した児童にも注目して採り上げる。